

DA

GO

No.2

DA

人 覚

宮沢 哲

&design 代表取締役
プロダクトデザイナー

あたり前だが、最近特に商品に関わるデザイナーに必要なものは「倫理観」ではないかと仕事を通じて感じている。デザイナーは、商品価値の「中心」部分に関われる職能であり、使えるか、使えないか、良い物になるか、すぐにゴミになるのかは「倫理観」が深く影響を与えていると考えている。デザインスキルを磨くことも大切だが、日々「人間力」を上げる努力も特に重要になっている気がしてならない。

語 覚

宮城 壮太郎

宮城デザイン事務所 代表
プロダクトデザイナー

モノや現象の背景にある物語を、イメージやモノの印象などを手がかりに想像する感覚。たとえば、目の前になにか製品があるとする。その製品を考えた人の意図や、目的から、成型法、店頭に並べられるまで流通の軌跡まで、製品の背景にあるさまざまなストーリーを思い描く感覚。

自 覚

柳橋 肇

プロダクトデザイナー

最近、あらゆる物事がイメージ上のみで処理され、自己完結してしまうことが多いように感じる。人間は死ぬまで己の肉体から逃れることはできないのだし、脳だけ使わずに体感を重ねていくことで初めて「自覚」できるのだと思う。もっとそういう感覚を見直して体現していかなければ、と自戒する今日この頃である。

純 粋 覚

酒井 俊彦

サカイデザインアソシエイツ 代表取締役
プロダクトデザイナー

今日、多くの無理が正当化されて物事が複雑になっている。たとえば「どこまでも食材を安く買いたい」という考え方。無理の積み重ねが、プロイラーの劣悪な飼育環境やマグロの資源枯渇など、改善するには複雑すぎる問題を生み出していく。いいものは高いという「単純化と理解」ではもはや問題は解決しない。利益や都合の前に、正しいと感じられるかどうかの純粋な判断感覚が必要だ。

わたしの「〇覚」

watashi no MARUKAKU

Part.

2

文・構成 = 編集部